



在京古高同窓会会報
第27号

〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-15-3
プリメーラ道玄坂110号
信陵会館内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 3462-1225
FAX (03) 5489-1358
発行責任：春田
編集長：千坂
印刷：(株)ケーヨー

在京同窓会メモ

信陵会館に本会関係者は常勤しておりません。
連絡先：〒115-0053
北区赤羽台4-8-3
菅昇
TEL/FAX 03-3907-0587
会計年度は6-5月、
年会費は2,000円です。
会の健全運営のため、
同封の振替用紙での
納入をお願い致します。
次回会報第28号は
2002年1月1日発行
予定、原稿は常時受付。

伊藤名誉会長
勲一等旭日桐花大綬章の栄誉



会長 高橋 淳夫

人だけであり、御家族皆様も大変な名誉とお慶びひとしおでございましょう。

この度、わが同窓会の名誉会長伊藤宗一郎先生が勲一等旭日桐花大綬章を授与されました。おめでとうございます。古高開学以来の

郷土の誇りとして心よりお慶びを申し上げます。今回の勲一等には旭日大綬章に五人、同瑞宝章に十一人のお名前が見え、存じあげて元住友電工社長の川上哲郎さん、元電源開発社長の杉山和男さんがおられ、慶びを共に致しました。最高の旭日桐花大綬章は先生お一

改革を掲げる小泉首相への支持率は圧倒的で、実体経済は寧ろ悪化しているのに株価が暴落しないのもその現れ、改革の具体策が見えないとの批判があるが、内閣の組閣ぶりにも十分出ているし、予算始めこれから次々と具体化されると思われる。改革の道は険難の道、永い不況の脱出は国難とすら云える大問題で、党内の相克、反

対反対の野党であつてはいけない。この内閣が中途で挫折すれば後はないのでなからうか。国民の期待、後押しに是非応えてほしい。先行の展望を示し、不安を払拭すれば、国民は我慢すると思われる。

さて同窓会活動の方に一言すると、一月二十一日に上野精養軒で四校合同新年会が盛況裡に開催されたこと(幹事校工業高)、三月一日母校卒業式に春田副会長が出席し東京堂雪賞を授与したこと(今回は特別五人)を報告したい。

なお、伊藤先生の祝賀会は大崎地区として六月二十五日東京駅大丸九十一階のルビーホールで四校役員有志により行い、参院選のため八月五日予定の定時総会で在京古高同窓会としての祝賀会を行う予定である。昨年の定時総会に出席できなかった方もぜひ御参加いただきたいと心から願っております。

近況報告



古高同窓会会長
野村 喜太郎

やあ！皆さん、こんにちは。何時もご支援いただき厚く御礼申し上げます。

伊藤宗一郎先輩が春の叙勲で勲一等旭日桐花大綬章を受章されましたことに對し、心から祝意を表します。古高並びに同窓会百年の歴史で初めての最高の慶事で同窓会の誇りであり、在校生には最高の贈物です。大崎管内でのこの度受章された同窓生ご三人居りますので、同窓会総会の席上で改めて祝意を表します。総会は八月十一日(土)午後、古川市「グラウンド平成」で開催致します。

な生徒が二人居りまして、特別四人に贈呈しました。僅かな額ですが生徒の励みになって居ります。又学校の財産である三本木町桑折の一・二ヘクタールの学校林に付いては平成十二年度に下刈り等除伐し、管理には佐々木龍樹氏にお願いし、万全を期して居ります。

校名看板について

伊藤宗一郎前衆議院議長の揮毫による新しい校名看板を掲げてから、一ヶ年が経ちました。皆さんにも報告し大崎タイムスにも記事として大きく載せていただき、同窓生は勿論甚にも話題となり気をよくして居りました。だがこの一年間に二度正門から看板が行方不明となりました。そして妙に戻ってくるのです。戻るまでの種々経路がある様ですが、めざす受験校近辺の住宅の門標を寸借して合格祈願すると縁起が良いと受験生間で話題となったことは半世紀前記したことはありますが、現代はどうでしょうか。縦163センチ、幅35センチの樺の枝の重い校名看板を持ち運びするのは恐れ入ります。

一方伊藤宗一郎前衆議院議長の揮毫したものだから人気があるのかなとも考えられます。この度の最高の叙勲で、益々評価が上昇しました。現在正門には掲げないで室内に厳重に保管してあります。宝物は深く蔵すですが、校名看板が役目を果たし、行方不明にならない様妙案はないかと先生方が思案中です。以上同窓会並びに学校の近況を報告し挨拶とします。

お知らせ

平成13年度
在京古高同窓会定時総会

【日時】
平成13年8月5日(日)
14:00~17:30

【会場】
神楽坂「エミール」

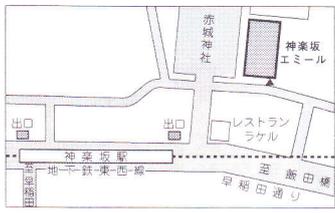
【会費】
8,000円

【講演講師】
前田 浩五郎氏(昭和20年卒)
(講師紹介:8頁)

【演題】
「21世紀は
どんな時代になるのか」
(スペインを旅して)

【交通案内】

地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩 2分
有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分
JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分



神楽坂エミール
財団法人 東京都福利厚生事業団
〒162 東京都新宿区赤城元町1-3
エミール TEL 03-3260-3251

ためになる話、うまい料理と酒！
みんなの参加で楽しい総会に。
総会案内は別紙です。

卒業生の進路状況 (過卒を含む)

国公立大学		私立大学		私立大学		短期大学	
大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数		人数
宮城教育大	4	東北学院大	66	大東文化大	1	短期大学	3
宮城大	5	東北工大	20	東京農大	2		
岩手大	5	東北福祉大	6	東洋大	4		
山形大	10	東北薬科大	1	日本大	14		
福島大	2	仙台大	7	法政大	2		
茨城大	1	石巻専修大	12	明治大	8		
埼玉大	1	文教大	5	立教大	1		
千葉大	1	青山学院大	1	神奈川大	5		
その他の国公立大	9	学習院大	2	関東学院大	1		
		北里大	1	立命館大	2		
		國學院大	4	関西大	1		
		國士館大	2	その他の私立大	107		
国公立大計	38	駒沢大	2	私立大計	285		
		専修大	8	合計	323		

学校の今

宮城フィリピン
青少年交流事業

五月二十四日古高はフィリピンから11名(高校生7名付き添い4名)の使節団を迎え全校生徒の歓迎式、使節団員の授業参加、昼食を兼ねた古高生との懇談会など盛りだくさんのプログラムで熱烈歓迎、日比間の友好を深めました。

この交流は平成十一年に次いでこれで2回目 本校職員の商品裕昭教諭が青年海外協力隊に参加した縁で始まったものです。

就職状況	
	人数
民間会社	3
国家公務員	3
合計	6



歓迎式典では美術部員が休日返上で制作した畳二十畳分の垂れ幕をバックに吹奏楽部の演奏のマーチで使節団が入場、全校生徒の盛大な拍手を浴びました。生徒会長の英語での歓迎挨拶、吹奏楽部による両国歌の演奏、そして全校生徒による歓迎の校歌斉唱。使節団はあまりの熱烈歓迎に大感激に応援による歓迎のエールの迫力には特に驚いた様子でした。

使節団員は2時間目に数人ずつに分かれて4クラスの英語の授業に参加し、日本の英語教育を見学し授業に参加して生徒諸君と会話。3時間目は化学の実験に参加し生徒諸君は化学部員を中心にフィリピンの生徒たちを手助けしました。生徒たちは言葉がうまく通じないのをもどかしがりながらも身振り手振りでお互いを理解しようとつとめていました。言葉の重要性をお互いを理解しようとする事の大変さ 大事さを身をもって経験した2時間でした。

昼食は打って変わって和やかな雰囲気です。生徒会役員 応援団生徒各部部長と食堂のカツカレーで舌鼓をうちました。ほとんどの団員が日本は初めてでカツカレーも初めて。日本の味に大満足でした。食事が終わる頃には皆打ち解けあつて慣れない英語ながらもコミュニケーションがとれるようになり相互理解が深まったようでした。

歓迎当日までの準備期間はわずか一週間、生徒会が中心になり企画立案実施まで生徒だけで行いました。特に吹奏楽部は短い期間でフィリピン国歌をマスターし演奏、使節団は大感激でした。古高生徒諸君の底力ここでも垣間見ることができました。

ブナの森遠足

平成十三年五月二十五日(金) 実施

船形山麓、旗坂キャンプ場を起点に登山コースは今年例年より残雪が多いため鳴清水と三光の宮の中間地点まで、遊歩道コースは升沢遊歩道を散策。

前日はやや雨が強く降ったが、実施当日はほぼ快晴となり、生徒・職員ともに三時間弱、鮮やかなブナの新緑の中を歩き回る。

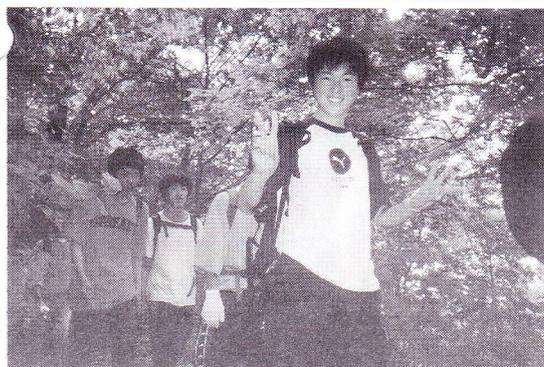
*生徒の声
登山道コース
一年三組 佐藤 貴史

まずこの時期の船形山はまだ雪が残っていて、僕たちが行った三光の宮の手前では沢の水も飲むこ

とができました。沢の水はとても冷たかったです。それと山自体は傾斜がきつ、さらに前日の雨で地面がぬかるんでいて登山はとても大変でした。

しかし、この雨で気づいたのですがよくよく考えてみると前日あられだけ雨が降ったにもかかわらず、登山道の道のりの中で、地面が泥だらけになっていったという箇所はほんの二割程度でした。その他は湿ってはいたし、下山の時は滑りやすかったけど、ほとんどしっかりしていませんでした。それに道には水たまりは一つもありませんでした。

この水の吸収力には驚かされました。これは、コンクリートで一週間かけてなくなる水をたった二時間で吸収するに値するなと思います。そして、このような森があるからこそ洪水など、山崩れなどが起きないのだと思います。麓や下流などを守っているブナ林の大切さを改めて感じました。



遊歩道コース

一年五組 石川 裕太

遊歩道コースは思っていたよりも、斜面が多かった。また、蚊も多く、黒い服を着ていた人は背中にも十匹の蚊がついていた。黒い服は蚊にまとわれつきやすいということを学んだ。久しぶりに山を歩いてみて、雨上がりの清々しいきれいな空気が吸うことができたし、緑の葉と青空が日常の疲れをいやしてくれた。勉強も大切だが、自然と触れ合うことの大切さも学んだ。そして、船形山のブナの原生林は、人間の手で守っていかなければならないと思った。

第42回
古高・築高定期戦

仙北の覇者を決する

古高 借敗！四連破ならず 漢の戦い！

第42回総合成績

	古高	築高
柔道	1	4
剣道	0	8
綱引き	0	1
卓球	3	1
野球	0	17
バスケット	0	94
ハンドボール	0	1
サッカー	3	1
ラグビー	5	1
テニス	1	2
総合	5勝6敗0分	
通算成績	28勝11敗3分	
	(4月27日金 実施)	

東京蛍雪賞を受賞して



生徒会長として活躍
岩本 英敏

この度は東京蛍雪賞という大変な賞ある賞をいただき、まことにありがとうございます。正直、このよな賞をいただけるとは思っていません。思った以上に、一生の励みになると思っています。

私が生徒会長になろうと思った理由は、百余年の伝統を誇る古川高校の古高魂を自分自身が肌で感じ、それをみんなにも感じてもらいたいという気持ちからでした。さらに自身自身がどこまでやれるかという自分への挑戦でもありました。偉大な先輩方が古川高校へ様々な形で貢献してきた中で、私もその先輩方に少しでも近づくことができたという一歩ががんばってできました。

しかし、今改めてこの生徒会長になってからの一年を振り返ってみると、やはり私一人の力では何もできなかったと思います。常に私の回りで支えてくれた仲間や先生方、先輩方の存在があったからこそ、このよなすばらしい賞を受賞できたのだと思います。そういった人達への感謝の気持ちを忘れずに日々精進していきたいと思っています。

最後に後輩へ。高校生活というのは、本当にあつという間に終わってしまいます。その僅かな時間の中でどれだけ自分をかがやかせることができただけか。ただ一つ「夢」を持つことです。部活でも勉強でも何でも

いいから己れの血を燃え立つような夢を見つけて、一心不乱に打ち込んで下さい。そしてあなたは気が付くのです。今自分が輝いていることに。



応援団長として
鈴木 俊

全校生徒を指導

この度は東京蛍雪賞という大変な賞ある賞をいただきありがとうございます。

私は古川高校に入学し三年間、何にも換え難い貴重な経験をしました。まず部活動で古高古高バレー部でベスト8復活を目標に部員ちようど6人でがんばってききましたが、あと一歩というベスト16で涙を飲みました。しかし、部員が少なかったからこそ一人一人の責任感やチームワークの大切さをより強く学ぶことができました。

次に定期戦です。私は応援団長となり、一年生の毎年恒例の応援練習を指揮し、古川高校を一つにまとめなければなりません。応援団は昨年復活したばかりで、「団長エール」や「山の神」などまだ復活していないものも多い状態でした。しかし、春休みに応援団で合宿をし、石田先生や古高OBの野中先生など多くの先生方のおかげで振り付けなど完璧にマスターすることができました。そして定期戦では、「団長エール」が復活

し、また古高の圧勝で終わりました。私は応援団長となり、何事も一生懸命努力すれば何でもできるということを学びました。そして古高生の団結力の強さを改めて実感しました。

最後に後輩へ一言。最近部活動をやっていない生徒が多いが、部活動を一生懸命がんばれば得るものが多いと思うので古川高校のモットーである文武両道を目標に頑張ってください。そしてこの伝統の古川高校で他では経験できないような充実した三年間を送ってほしいと思う。



ソフトボール部の
中心選手として活躍
道塚 勇

「東京蛍雪賞」これは、私にとって遠い存在であり、私自身が受賞者になるとは夢にも思っていませんでした。それで、受賞の知らせを聞いたときは、何よりも驚きの気持ちが先にきました。そして、後から喜びがどっと沸きあがってきました。この受賞の喜びを自身の飛躍への糧として、よりいっそう励んでいきたいと思っています。

私はこの三年間、先輩方の築きあげてきた古川高校をより高い所へ持ち上げるべく、努力を重ねてきました。それは部活動で形をなすことができました。五年振りの

今大会出場、これは県大会を激戦の中勝ち進み、優勝を手にする事ができたからなのです。この県大会優勝は、先輩から託された夢でした。そして、今度は私達が後輩に、全国に、古川高校の凱歌を轟かせるという夢を託していきたいと思っています。

ソフトボールというスポーツを通して学んだことは多いのですが、一番大切なのは、自分自身はみんなのために。この気持ちだと思います。この気持ちを大切に、社会への貢献に努めたいと思います。

最後になりましたが、私達をささえてくださった皆様に感謝申し上げます。また今度の東京蛍雪賞、本当にありがとうございます。



囲碁部員として
全国大会で活躍
福地 直樹

東京蛍雪賞を受賞させていただき大変ありがとうございます。

私は三年間、囲碁を通じてがんばってきました。県大会優勝に始まり、全国大会出場、新人大会優勝、東北大会優勝と数々の成果をあげ、その努力の結果として今回の受賞となつたと思っています。

この度の名譽は自分一人の力だけで成されたものではない、とも

思っています。囲碁の相手をして下さった早坂先生、碁会所の方々や友人の皆に支えられ、ここまで来たものだとも思っています。囲碁の仲間が増えたことも励みになりました。私の活躍によってこれまでクラブだったものが部に昇格し、後輩ができました。彼らが強くなつて古川高校の誇りとなるのを期待しています。

また囲碁を通じて友人も増えました。築高、気仙沼高、仙台一高、三島学園、東北学院、宮城県のあちこちにいます。彼らとはもう会うこともないと思いますが、私は一生忘れたいと思います。

受賞者五人の中に選ばれたことを誇りにして、これからも私は囲碁を続けていこうと思っています。



読書感想文
毎日新聞社賞受賞
北澤 秀倫

ありがとうございます。まさかこの私のような者が、東京蛍雪賞という名譽ある賞をいただくことができるとは思いませんでした。

古川高校に入学してこの三年間、表だつたことが好きではない私は、今までのこの賞を受賞された先輩方のように、華々しい活躍をし

たり、学校や仲間たちに貢献したりすることもないし、そのような力もないと思っていました。

ただ私は私なりに毎日を精一杯過ごすこと、そして自分にできることを自分のペースで真面目に努力することは心がけてきました。そんな平凡で地道な努力であつても、それは大きな結果を生み出すことが十分に可能であるということ、そしてそれを認めて下さる皆様が必ずいるということは、私だけに多く多くの仲間たち・後輩たちにもどんなにか励みになったことと思ひます。

これからは、受賞の感謝の心を社会に還元するつもりで物事に取り組んでいきたいものだと思ひつています。本当にありがとうございます。

最後に、この度の受賞につながった読書について一言。読書は、一瞬にして物理的にも空間的にも時間的にも無限の世界を与えてくれます。私は、これからも暇を見つけては楽しんで読書を続けていきたいと思ひつています。そして、一人でも多くの人たちに読書の楽しさを分かちてもらえるよう努力したいです。



(3ページより)

本部同窓会事務局だより



事務局長 狩野 宏史

▽万緑の季節になりました。在京同窓会の皆様におかれましては、益々御壮健のことと拝察申し上げます。

平成十三年三月一日の卒業式には、在京同窓会から春田副会長にお出でいただき、激励の言葉とともに「東京蛍雪賞」をお贈りいただきました。「東京蛍雪賞」は、平成九年の古高創立百周年を記念して、「母校愛を形に」という在京同窓会の方々の思いから生まれた賞です。例年古高の三ヶ年に、学業・部活動・生徒会活動などで活躍した生徒三名に贈られておりましたが、今年度は活躍顕著な生徒が多く、在京同窓会の承認を得て、五名の生徒が受賞いたしました。五名の生徒は、それぞれに「東京蛍雪賞」を胸に母校を巣立っていただきました。在京同窓会の皆様の御

高配に心から感謝申し上げます。▽古川高校は、現在二十一世紀の高校教育を担うべく、学校改革の真つ最中です。その一貫として今春の高校入試の推薦入試で面接と作文も実施することになりました。作文の題は「イギリスの思想家フランシス・ベーコン」の「知は力なり」という言葉がありますが、あなたはどうか考えますか。でした。中学生にはいささか難しすぎるといふ声もありましたが、「さすが古高」といふ声の方々が聞こえて参りました。

▽大崎地区の少子化にともない、平成十三年度の入学生から一学級減の六学級二百四十名の定員となりました。しかし、志願者は昨年とほぼ同数であったため、競争率が近年希にみる高倍率になりました。入学式での校長式辞では、中国の故事に出てくる、一日に千里を走る馬を例えに「諸君等は麒麟である。」と期待の言葉を贈りました。

また、野村同窓会会長からは、「真の古高生の証は古高の校歌が歌えることである。」と古高生としての心構えが話され、最後に、右手の拳を大きく挙げ「古高生頑張るぞ！」と後輩を激励されました。会長の「古高生頑張るぞ！」は入学式と卒業式では恒例になっており、会長が降壇の際には参加者の心が一つになったように大きな拍手が式場を包みました。

▽平成十三年度も、在京同窓会の益々の御発展と在京同窓会の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。母校へも是非足を運んでいただき、後輩への叱咤激励、宜しくお願ひ申し上げます。

伊藤宗一郎先生、勲一等旭日桐花大授章受賞祝賀会
—在京古川市内高校同窓会有志—



去る六月二十五日、東京駅大丸十一階・ルビーホールにおいて、合同新年会の仲間である本校、古女、古工、古商の有志六十名ほどが集まり、伊藤大先輩の受賞を祝いました。

古川での五百名、加美四町での千人パーティーの後とあつては、いかにも小づくりでしたが、参加者一人一人が郷土の誇りの大先輩とお話して下さるといふアットホームなお祝い会でした。伊藤先輩のご挨拶からの印象的なお話し(ことば)を列記させていただきます。ここから先生の「人となり」を讀取っていただければと思ひます。

・第一おんつあん(親父の弟、守治さん)の存在大。
・政治家として清潔な心がけた。
・悪いことをしては、故郷の美しい自然(葉来、鳴瀬、舟形、栗駒)に顔向けができない。
・国会議員での先輩は中曾根さんと山中貞則さんのみ。
・現在、政治倫理委員会に属している。
・小泉総理とは先輩という立場で、よく相談相手になっている。
・自分の人生をまっとうすることは、それほど難しくはないが、人生は人のため、世のために。
・これからも勉強することがある。
・挨拶の走り書きからのもの故、多少正確を欠きますが、このような内容に思ひます (千)

・吉野作造さん、守屋栄夫さんと郷土の偉人がいるが、後に続く人の目標にと、今回受賞を決意した。
・この賞の第一号は伊藤博文、尊敬する乃木希典も受賞されている。
・昭和十一年に古川中学(旧制)に入ったが、五年間無遅刻・無欠席で通った。同級の今野栄喜と競い合った。



平成十三年度 古川高等学校同窓会

同窓会総会 平成十三年八月十一日(土)
同窓会新年会 平成十四年一月 六日(日)
平成十三年度当番幹事学年
高校八回卒・十二回卒・十七回卒・二十一回卒・二十七回卒・三十二回卒
久しぶりの故郷で古高の校歌を歌いませうか。
在京同窓会の皆様の参加をお待ちしております。

古川市内四校合同新年会報告

第八回目となった今回は、一月二十一日(日)上野精養軒において、二六四名の出席(本会は九二名)のもと盛大に開かれました。来賓として佐々木古川市長、大沼本校校長を始め各校長、同窓会会長が列席。今回の主幹学校は古工、本会は副幹学校でした。

金メダリスト 三宅義信氏講演



前日の大雪が嘘のように晴れた会場に登場した特別講演者の東京・メキシコオリンピック金メダリスト(同郷人)三宅義信氏(ウエイトリフティング)、三宅氏は「私とオリンピック」という題で自分の来し方を情熱的に、つらい話も時にはユーモアを交えて語られました。

昭和の10年代、そのころの東北の農家は貧乏で子沢山の時代もあり、三宅氏もこの子沢山の農家に生まれました。長男でない為、早くから自立心があったのでしよう。小学生時代から新聞配達をし、家計を助けていたという。大河原高校に入学し、そこで

ウエイトリフティングを、インターハイ、国体の選手となりました。

その後、政法大学に入りオリンピック選手としての活躍は、皆さん御存知の通りです。オリンピック四回出場、アジア大会、世界選手権、国際大会等の輝かしい競技歴で歩んで来られました。現役を退かれた後、後進の指導、国際大会の監督、役員等を歴任。数々のスポーツ功労賞、紫綬褒章受賞と書ききれないほどの受賞です。

小さいころの苦労話から金メダルを手にするまでのスポーツ根性論、強い信念、豊かな人生経験をいただきました。同時代を共に生きてきた新年会の参加者から大いなる拍手、喝采をうけた新春講演でした。

大好評の

ふるさと「物産展」



「新年の集い」でふるさと物産展が例年にぎわいをみせています。

小さい頃から食べ慣れた味も少し今風になってはいますが、やっぱり懐かしいおいしい味です。販売は女子校の担当で係になった方々も年々売り上げが上手になって売り切れ続出です。皆さん、また来年も物産展へどうぞお出かけ下さい。

人気のふるさとの味ベスト10

- 1 もちべいせつと(ずんだもちが圧倒的人气・他にくるみ、ごま、あんこがあります。)
- 2 しそ巻き
- 3 鉄火みそ(ごま、くるみ、ごぼう、にんにく)
- 4 かりんとろ
- 5 漬物(しそ巻き、きゅうり、大根、キャベツ)
- 6 納豆(つと納豆)
- 7 笹かまぼこ
- 8 凍み豆腐
- 9 米
- 10 ゆべし



大沼校長と談笑

今匠のイベントに

参加して
56年卒 佐藤 正永

〈おもしろかった点〉

- ①各校長からの母校情報(四校の情報ほとんど持ち合わせていませんでしたので)
- ②三宅氏の講演(話をするのが慣れており、力の入り方が自然で聞き易かった)
- ③つまらなかつた点

①来賓が着席で、一般が立食(来賓の方と気軽に話ができない)

②トータル時間が長い(最低限の部分だけ出て、なにか他の事に時間を使えそうだった)

③映像が入っても良いのではないかと(積雪・校舎水漏れ・部活活躍の状況など)

〈来年も参加したいと思うか?〉

出てみたい。(千坂さん、亀井さんのように会話ができる相手が多かったから)

〈同級生等に勧められるかどうか〉

とても勧められない。(年齢層が高く、私以外に会話の相手がいるだろうか?)

〈有り難かったこと〉

萩原夫人にキーマン(春田・千坂さん)への紹介を頂いたので、

その後に他の方々へのアプローチがしやすくなった。

〈ちよっと感じたこと〉

一般企業同様、古高も改革が必要になっているのだな、と。(少子化、大沼校長との会話、「蜚雪」への亀井さんの寄稿文などから)



本部及び在仙同窓会代表

お知らせ

第9回「新年の集い」日時決まる
平成14年1月20日(日)

上野精養軒

*お誘い合わせの上、是非ご参加を!

同窓会活動の一考察(その三)

副会長 春田 紘輔

今年三月二十五日九州の嘉穂高校柔道部東京OB会に招かれて出席した。同校は、会報先号で一寸触れたので御記憶の方もありと思いますが、校歴やOBの活躍状況では古高とほとんど似た学校である。しかし、在京同窓会総会の出席者では三百人を下回ったことはないという驚異的な結束力の伝統校である。その中の柔道部OB会はどうであろうかと大いに興味をもつて出席した。

OB会といつてもその日は現役部員から十名選抜して世田谷学園での合宿稽古が終わったの慰労会を兼ねたものであつて、総勢七十名余がホテルエドモンドという豪華ホテルの一室で厳肅な雰囲気のうちにもなごやかな先輩後輩のうらやましい場面であつた。

この席のトップは元運輸事務次官をされた永光氏が在京の会長でもある方である。この方の訓辞挨拶も私の感じでは気張らないながらも格調高く、かつ愛情のこもった素晴らしいものであつた。初対面の私に対してでもいねいに話しかけられ、古川のことについてもいろいろ質問され、ついには来賓扱いで一言挨拶の御指名までいただいでしまった。

前置きが長くなってしまつて恐縮だが、ここでいろいろ考えさせられたことについて若干まとめてみた。

先ず現状ほとんどの在京同窓会は、苦しい運営を強いられているのではないだろうか。

- 一、少子化時代に入り、地方から出てくる余裕がない。
- 二、企業のリストラが厳しく、都会離れが進んでいる。
- 三、若い世代の組織離れが進んで同窓会の存在に価値観を認めない。
- 四、その他諸々数え上げたらきりが無い。

というわけで一定の年代を境に減ることはあつても、増えることはないというのが現状ではないだろうか。今の企業の生き残り問題と共通する時代の流れというように感じられる。

同じ同窓会でも漫然と先輩、後輩という感覚では受け付けない風潮が生じていることを見落としてはならないという気がする。終身雇用とか組織依存の感覚が薄くなり、おしつけが通用しなくなつたことが一番の変わり方であると思われる。しかし、ここでふんばるところがある。絶対に対応してはいけない。合理的であるところにあるのではないだろうか。要するに納得できるということが何であるかである。

前段引き合いに出した柔道部であるが、どうみてもこの稽古のハードさについてゆけるのは、特殊な人間と思つてしまう。しかし、

私の見る目では、その中に入つてしまえば、そこに存在を見つづけるのである。

話は、一寸飛躍するかもしれないが、同窓会の参加についても余りまわりくどい理論や条件はないと思う。先ずは入つてゆくことである。そして、最大の得るものかどうかをみつけるかであるが、それは絶対に現物ではない。キザな言い方になるが、メンタルなものである。

競走馬が、疲れて一時ダウンする時があるというが、育つたふらふらと牧場に戻すと元気をとりもどすということ聞いたことがある。東京にいる人間に牧場に戻れるということは無理である。そこが同窓会の役割であるように思うのである。

同窓会の存在感とは、そこから何等かのエネルギーを吸収できるという実感が必要である。社会の第一線で活躍している現役の先輩が多く参加してもらう必要がある。この人達には申し訳ないが、受ける人ではなくエネルギーを分ける人の役をしてもらう必要がある。現在は残念ながらどちらかというといささか老人会的雰囲気先行しているように感ずる。古高の優秀な現役の先輩がもっと積極的に動いてほしいのである。ここに母校へ、先輩へその存在を示すことが鍵である。ふるさと牧場の役割をしてほしいのである。



平成十三年度定時総会講演師 前田浩五郎氏プロフィール

- 昭2 古川市三日町(荒川)に生まれる
- 昭15 古川中学入学
- 昭20 同校卒業、旧制東北大学附属臨時教員養成所入学
- 昭22 米沢高等工業専門学校(化学)入学
- 昭25 東北大学理学部化学部教室入学
- 昭30 同大化学教室助手
- 昭32 通産省工業技術院電気試験所出向
- 昭37 理学博士授与
- 昭39 カナダ国立研究所留学
- 昭41 帰国後質量分析学、光電子分光学等研究に専念する
- 学会活動、著作、諸大学教育に従事
- 昭63 定年退職、筑波研究学園専門学校教授
- 平2 東京家政学院、筑波女子大学教授
- 平10 定年退職

現在 インターネット普及活動のほかMSDBによる分子構造とMSの相関則研究中

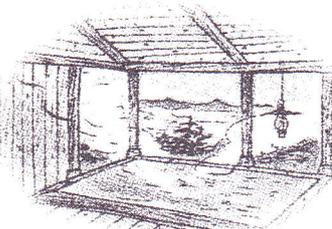
編集後記

私事になるが、四月の異動で職務内容が大きく変わった。とは言え、「地球は回る」「流行は繰返す」と同じ原理で、十四年ぶりの古巣。所が昔は昔、今は今の感。ということ、今回の発行作業は「ゆとり」がなかった。

加えて、一定量はいただいていた「投・寄稿」がバッタリ状態。広告もあまり無理にはお願いできない、と弱気? もう、限界? 一新の時期?

人間には「気ばらし」が必要。六月第三日曜日は鹿沢・湯の丸高原レンジツツジまつりへ。いわゆる「新人養成」の地であり、山荘もある。幾度となく訪ねているが、カラマツの新緑と相俟つてのオレンジは心なごむものであつた。イワカガの可憐なピンク、初夏を告

皆様の、八月五日、いつもの神楽坂でお会いしましょう。(千)



げるカッコウ。山荘での山菜天ぷら。車で三分の休暇村雲井の湯。郷愁派には歩いて三分の紅葉館。鹿沢は三十数年來の地、「雪山讃歌」の時代とそれほど変わつてはいない。

前二回好評の亀井氏には第三弾を所望。学校からは多くの原稿(材料)をいただいたが、紙面の都合で、山岳部OB会記事等は掲載できなかったことをお詫びします。又、いつものことながら企業広告を協賛いただいた各氏に深謝いたします。